

お客さまとともに歩んだ100年の歴史

100th
Anniversary

2024年、三井住友トラスト・グループは創業100年を迎えました。信託法・信託業法が施行された翌1924年、同法に基づく我が国最初の信託会社として三井信託株式会社が、続いて翌1925年には住友信託株式会社が創業しました。事業者と投資家の皆さまと歩んできた当グループと信託の100年をご覧ください。

事業者の皆さま



日本の経済成長の一翼を担った造船所風景
(1955年頃、豊洲の東京石川島造船所)

写真提供：東京都港湾振興協会

貸付信託が戦後復興、高度経済成長に貢献

戦後復興の途上にあった日本では、電源開発や船舶建造などの緊急で重要な設備資金と直結する資金調達の仕組みを必要としていました。そこで信託業界は、1952年から独自商品として開発し販売した「貸付信託」を通じて、戦後復興と高度経済成長を支える設備資金供給者となりました。



信託車両第1号となる小田急電鉄の初代ロマンスカー
(1957年)

動産設備信託

米国の鉄道会社の手法をもとに日本で誕生した動産設備信託のうち、信託車両第1号となったのは、特急専用車両として1957年に登場した小田急電鉄の初代ロマンスカーでした。動産設備信託は船舶、バスなどへ受託対象を拡大させながら、日本の交通インフラ整備に貢献しました。

証券代行業務の開始

1958年、株主名簿管理などを行う証券代行業務に参入し、適切な名義書換や株券の管理等により資本市場の発展に貢献しました。

1950
年代

1930
年代

1920
年代

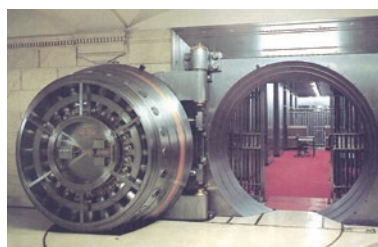


三井信託本店ビル
三井本館

三井信託 創業 (1924年)

信託法・信託業法に基づく我が国初の信託会社として創業。

住友信託 創業 (1925年)



保管業務用金庫
(三井大金庫)

お客さまの大切な財産をまもる

関東大震災を経験し、改めて財産管理の重要性を痛感したことから、堅牢な大金庫を設置し、貸金庫および保護預かりの保管業務を開始しました。



都市再開発事業
(六甲アイランド)

土地信託で新しい文化圏を創造

信託協会が1973年に開発した「土地信託」は、土地の有効利用を希望される所有者に代わって、専門家である信託銀行が管理・運用に関わる手法として、1980年代半ば頃から再開発事業と結び付いて本格的に発展しました。当グループは土地信託事業案件でのプロジェクト管理のノウハウ等を活かし、大規模な都市再開発プロジェクト(六甲アイランド)にも取り組みました。



経営統合の最終合意
記者会見に臨む住友
信託銀行常務取締役
(右)と中央三井トラ
スト・ホールディングス
田辺和夫社長(左)

三井住友トラスト・グループ誕生

住友信託銀行と中央三井トラスト・グループは、経営基盤の強化により一層の社会的責任と公共的使命を果たすとともに、高い専門性と幅広い業務分野を発揮することを目指して2011年に合併し、三井住友トラスト・ホールディングスが発足しました。

2011
年

2000
年代

1980
年代

1960
年代



年金信託勧誘のための広報誌(中央信託銀行)

中央信託 創業(1962年)

年金信託の始まり

高度経済成長期の労働力確保や福祉増進に対応するため、企業(団体)の従業員が安心して働ける福利厚生制度を実現すべく、企業向けの適格退職年金などの取り扱いを開始しました。その後も時代のニーズに合わせ、個人向けの年金信託、確定給付企業年金、確定拠出年金の取り扱いや、公的年金や共済等の運用・管理などに業務範囲が拡大していきました。



「ビッグ」パンフレット(住友信託銀行)

ビッグの時代

1981年、新型貸付信託「ビッグ」の募集を開始しました。運用収益が再運用されることにより高利回り(貸付信託の予想配当率による半年複利)を実現し、金利選好を強めていたお客さまの間で大きな人気を呼びました。その後も実績配当型の金銭信託「ヒット」など、信託の機能を活かした貯蓄・運用商品が誕生していきます。



出前授業(環境教育)の様子

社会課題解決に貢献

社会奉仕的な財産管理機関としての側面も持つ信託銀行では、創業以来社会貢献を重要な指針としており、2000年代にはSRIファンドの取り扱いを開始し、その後も環境・金融教育などSDGsに先駆けて社会課題の解決に取り組みました。

人生100年時代に向けて

人生のさまざまなライフステージを安心して明るく過ごし、個人のライフステージ・世代間の循環を円滑に進めるため、信託の力を活用した幅広いサポートを行っています。

aibo シンジル&
タクセル エディション



投資家の皆さま

感謝と挑戦

100周年事業 ～次の100年へ～

創業100年を記念し、グリーンな社会の実現などの社会課題解決に向けた産業金融を支える新たな信託商品の開発・販売、社史の編纂、アカデミックな観点から信託の未来を展望する研究会・成果物の公表など、ステークホルダーの皆さまに当グループをより深くご理解いただき、感謝の意を表すさまざまな取り組みを、100周年事業として進めてまいります。

当社は2024年10月1日に、商号を「三井住友トラストグループ株式会社」に変更します。健全で豊かな未来創りを目指した創業の原点に立ち返り、「託された未来をひらく」存在として、これまで以上にグループが一体となって新たな「挑戦」に取り組んでまいります。



ステークホルダー	主な取り組み(予定)	目的
株主・投資家	- 記念配当 - 株主総会やIRなどを通じた100周年の周知・コミュニケーション等	株主・投資家に感謝を示しつつ、当グループへの理解を促し、個人株主増加の機会とすること
お客さま	- 個人向け定期預金キャンペーン、新たな信託商品の提供 100周年特設サイトの開設、ロビー展の実施、社史発行、TVCMやデジタル広告の実施等	お客さまに感謝を示しつつ、当グループへの理解・親近感・信頼感を高めること
社員	100周年アンバサダー制度の構築、社員ワークショップの開催 100周年ロゴの投票、記念品の投票・配布、100周年アワードの実施等	- 社員が主役となって自ら企画・運営に参画し、100周年を自分ごとと捉えステークホルダーに改めて感謝するとともに、自ら挑戦していく文化を醸成していくこと - 将来に向けて引き継いでいくものを共有すること - 事業・グループ間の交流を促進すること
社会	- 信託業100周年を記念した研究会の組成や、日本における資金循環のあるべき姿と信託・信託銀行の役割等についての委託調査研究 『信託法務大全』等、各種書籍の作成・出版等	100年を経て発展した信託の現況を確認し、発展の可能性を展望するなど、信託の知見を活用して社会へ提言すること

挑戦する企業文化の醸成に向けて

グループが一体となって

当グループ内の400名以上を「100周年アンバサダー」に任命し、当グループ各社での「社員ワークショップ」の実施や100周年事業の周知を行っています。また、アンバサダーの集合型研修やデジタル技術も活用した連携等により、事業・会社を越えたグループ内のつながりを創出していくことや、次世代のリーダー候補となる人材プールの創出にも努めてまいります。



アイデンティティの再確認

当グループ各社のアンバサダーが主催する全社員参加型の「社員ワークショップ」を中心としたさまざまな施策により、社員一人ひとりが当グループの原点と歴史を振り返りつつ、社員の具体的な挑戦を支援・促進することで、社員自らが挑戦していく企業文化の醸成を図ってまいります。



グループ社員の声



時代に適した価値提供への挑戦

下住 彩乃 三井住友信託銀行 渋谷支店・渋谷中央支店

入社以来、支店にお越しいただくお客さま一人ひとりのお悩みやご希望に応じて、専門的なコンサルティング・多様なソリューションをご提供しています。アンバサダーとしてワークショップを重ねるなかで、時代とともに変遷するお客さまのニーズに应运えてきた信託の歴史を知ることができました。私が提案している『人生100年応援信託〈100年パスポートプラス〉』は、深刻化する認知症問題への備えとして開発された信託商品であり、現代においても信託が形を変えて社会課題の解決に貢献していることを実感しています。今後もお客さまに寄り添いながら、新しい時代に適した価値の提供に挑戦していきたいです。



歴史に根差した「品格」を矜持に

川名 裕輔 三井住友トラスト不動産 人事部

三井住友トラスト不動産は、個人のお客さま向けの不動産仲介に特化した会社として1986年に設立されました。当グループ全体の歴史からすると新しい会社ではありますが、ワークショップで当グループの歴史と原点を振り返る機会を得たことで、100年の歴史の積み重ねが私の業務にもつながっていることを実感することができました。現在は人事部に所属し、社員向けの研修を担当しています。当グループの歴史に根差した「品格」を矜持とすることを次世代に伝え、より誇り高い会社として、当グループのさらなる成長に貢献していきます。